福島県社会科教育研究会レポート№.１

2018年度冬季セミナー実施報告

福島県社会科教育研究会　研究推進委員

１　日　時　　２０１９年２月２３日（土）
　　14時30分～16時00分
２　会　場　　福島市子どもの夢を育む施設　こむこむ館
３　講　師　　筑波大学人間系教授　唐木　清志　氏
４　演　題　　「新学習指導要領とこれからの社会科の授業」
５　参加者　　会員、一般参加者（小学校教諭、研究機関、大学院生　等）　計３４名
６　内　容
（１）講演の構成として以下の５点が示された。
　①　新学習指導要領が重視する「選択・判断」の授業
　②　新科目「公共」の『解説』に記された事例
　③　「福島市の公共交通」に関する教材研究と授業化
　④　公共交通に関する社会科授業の事例
　⑤　「選択・判断」型授業の確立とこれからの社会科
（２）主な内容
　①　思考力・判断力・表現力等を育てるために、考察力、構想力、説明力、議論力が大切であり、それらを小・中・高等学校を通して育む必要がある。
　特に構想力〔社会的な見方・考え方を用いて、社会に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想する力〕が大切である。※各校種における「構想力」については下記参照。

「構想力」の系統性
高等学校：社会に見られる課題を把握して、身に付けた判断基準を根拠に解決に向けて構想できる。
中 学 校：社会に見られる課題を把握して、解決に向けて学習したことを基に複数の立場や意見を踏まえて選択・判断できる。
小 学 校：社会に見られる課題を把握して、解決に向けて学習したことを基にして社会への関わり方を選択・判断できる。

　②　「選択・判断」型授業の役割として以下の３点が示された。
　ア　社会的事象を「他人事」と捉えている生徒にとっては、社会に見られる課題を取り上げ、「選択・判断」を迫ることで、それを「自分事」として捉えることのできる契機となる。
　イ　「選択・判断」型授業では、対話的な学びが用意されるが、それは、自分の意見と他人の意見の違いを知り、それを前提とした話し合い、合意形成へと展開する道筋である。
　ウ　「考える」授業は大切である。しかし、それだけで「市民」は育成できるのか。課題を共有し、課題の解決策を協働的に探り、社会に対して提案・行動していくのが市民である。そのためにも、「選択・判断」型授業は重要である。

７　講演会に参加して
　新学習指導要領のポイントや授業実践につなげる手立て、とくに「選択・判断」する授業の大切さ、小・中・高等学校のつながりについて理解を深めることができた。また、地方都市が抱える人口減少問題をより具体的に考えるため、公共交通機関の問題を例に教材化する視点を学ぶことができた。
　最後に、著書（「『公民的資質』とは何かー社会科の過去・現在・未来を探るー」）から引用された「公民的資質をどう考えるか、まずは、ここから始めて欲しいと思う。」という言葉があり、社会科教員として大変心に響いた。